

SC接客ルールプレイングコンテスト感染防止運営のガイドライン

基本的には緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令された状況下においては政府機関、自治体の要請に従います。
それを前提に、開催する場合には下記、感染防止策を徹底してコンテストを実施します。

「3密」回避

「密閉」回避

- 休憩時は窓・出入口を適宜開放、送風機を導入し、会場の換気を図る。二酸化炭素濃度測定器で計測して、必要換気量を保ちます。
※会場の換気システム要確認
- 対面で食事や会話をしないようにする。

「密集」回避

- 競技者ごとに関係者及び応援団(3名)の方は総入れ替えを行う。
- 一般客は入れない形での無観客開催とする。
- 会場の人数は、収容定員の50%以下とする。

「密接」回避

- 必ず不織布マスクを着用する。
- お客様役は不織布マスクに加えて、フェイスシールド、手袋を着用する。
- 審査員席・レジ前等、必要に応じてアクリル板を設置する。
- 競技者控えには、パーテーションを設置する。



消毒・検温・不織布マスクの徹底

運営側

- 感染防止のチェックポイント:感染防止対策のチェックポイントを作成する。
- 個人情報取得:感染者が確認された場合を考慮し、来場者（競技者を含めたグループ代表者）・関係者の氏名・連絡先（名刺など）を把握する。
- スタッフ・審査員の衛生:不織布マスク・手袋の着用、手洗いや手指消毒、検温の徹底を図る。
- ゴミの廃棄:ゴミを回収するスタッフは、不織布マスクや手袋を着用する。不織布マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗う。
- 隔離スペース:イベント開催中に来場者・スタッフ・関係者が体調不良を訴え感染が疑われる際は、医療機関を受診いただきます。
念のため隔離スペース（パーテーションで仕切り）も準備しています。

ご来場される方（審査員・競技者含む）

- 不織布マスクの着用:来場者には、不織布マスク着用を依頼する。
- 体温検査:入場時に来場者の体温検査を実施。37.5度以上の人は入場を断わることを検討する。
- 連絡先登録:入口で代表の方に名刺をいただき、個人情報を保持する。
- 感染が発生した場合は、感染経路特定のため、必要情報を政府機関・自治体の要請により開示する。
- 手の消毒:非接触型アルコール消毒器を設置する。
- マナー喚起:咳エチケットや顔に触れないようにするなど、マナーについて、スタッフより注意喚起を行う。

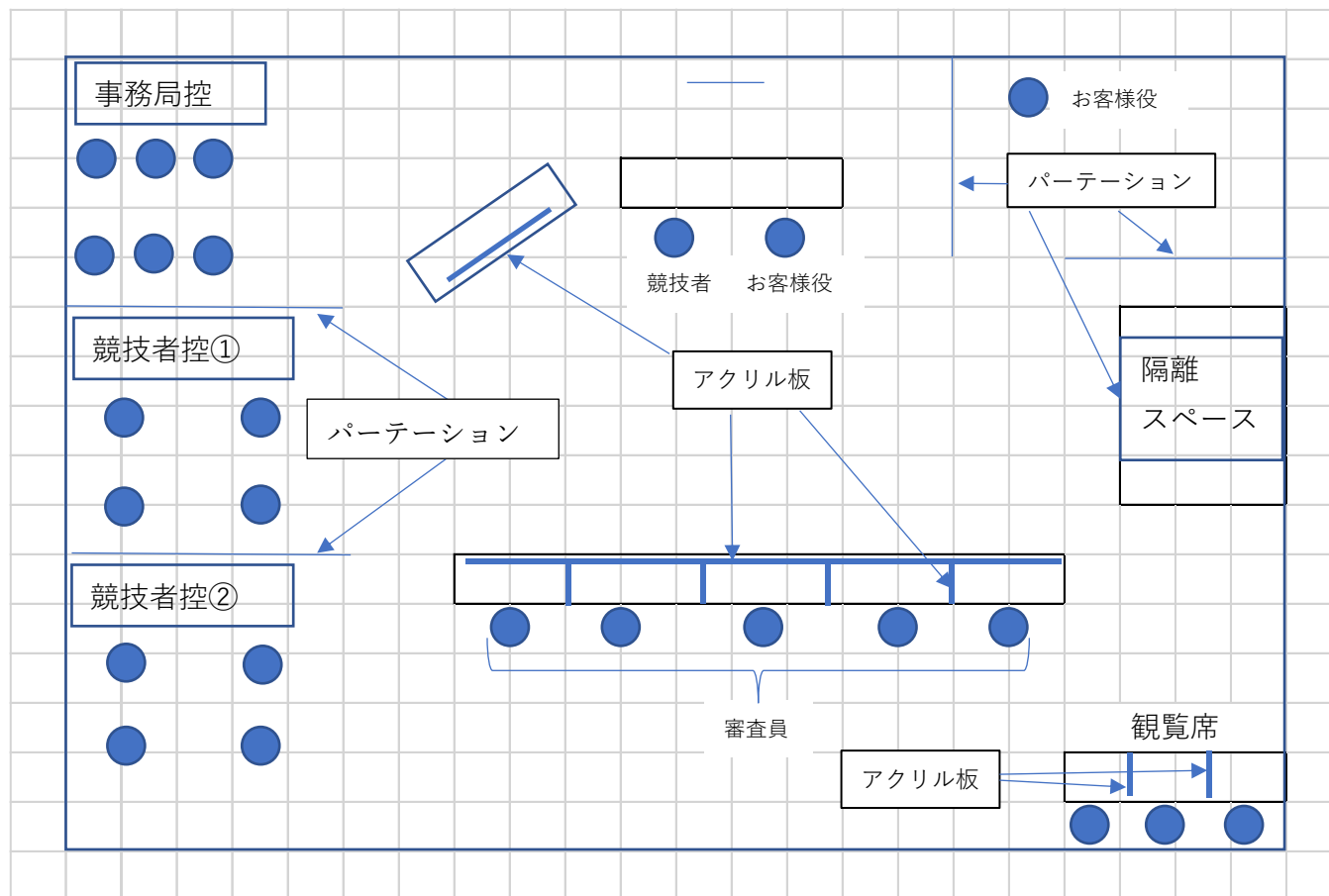
運営スタッフの体調管理

- スタッフ・審査員は来場前に、体温測定、自覚症状の確認を行う。
- 当日朝の体温測定を実施。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養。家に帰ったらまず手や顔を洗う。
- 手洗いは、30秒程度かけて水と石けんなどで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。

競技会場の衛生管理

- 他人と共用する物品や手が頻回に触れる箇所を工夫して、最低限にする。
- 特に、高頻度で手が接触する場所=ハンドポイントに注意する。
- 定期的（競技者毎）に除菌・洗浄を実施する。

【支部大会の基本レイアウト】



1. 応援団の声を出しての応援は禁止します。
2. コロナ感染対策を徹底したうえ、最小人数の応援団（3人）のみ入室許可し、一般客は入れない形での無観客開催とします。
3. 会場によって、出入口の位置等が異なるため、状況によって臨機応変に対応します。
4. 人員は収容定員の50%以下。
5. 全関係者が不織布マスクを着用。
(お客様役はフェイスシールド、手袋も着用。)
6. 事務局ロープレ担当、お客様役は抗原検査を受けて陰性であることが必須。
7. 審査員席、観覧席はアクリル板で区切ります。
8. スタッフ控室、競技者控室はパーティションで区切ります。
9. 各競技の入れ替え時間に消毒を実施します。
10. 当日、体調不良者が発生した場合には、医療機関を受診いただきます。念のため隔離スペースを準備して、ホールへ連絡後指示を仰ぐ。
(保健所・医療機関への連絡など)
11. 休憩時は窓・出入口を適宜解放、送風機を導入し、会場の換気を図ります。
12. 二酸化炭素濃度測定器で計測して、必要換気量を保ちます。